

## 第 10 章

# 「ありがとう」を今こそ

東日本大震災では、  
全国各地や世界各国の皆さんから物心ともに支えられた。  
時間がたった今だからこそ、  
もう一度、ありがとうの気持ちを伝えたい。



ありがとう——。支援物資の運搬や捜索活動に尽力した自衛隊が撤収する日、町民たちは隊員一人一人に感謝を伝え、別れを惜しんだ(2011年7月26日撮影)

### しえんぶつしをくれてありがとう

大槌小学校 1年生 齊藤 杏耶さん

わたしは、ずいずいしのがっこうから大槌し  
ようがっこうにもどってきました。もどってきてか  
ら、たくさんしえんぶつしをもらいました。わた  
しは、えんぴつやけしゴムをもらってうれしかった  
です。えんぴつやけしゴムは、まだつかっていない  
けど、だいにじにつかおうとおもいます。しえんぶつ  
しをおくってくれた人たちに「ありがとう」とお  
もいました。わたしもこまっている人がいたらた  
すけてあげたいとおもいました。

### おふろ、きもちよかったです

大槌小学校 1年生 小笠原 瞳さん

わたしは、じえんたいさんのおふろに入りました。  
おふろは、ひろかったです。おゆはたつぷりありま  
した。おゆは、青だつたり緑だつたりして、おもし  
ろかったです。おかあさんと、「きもちいいね。」と  
はなしました。  
おうちのおふろがつかえなかったので、とてもあ  
りがたかったです。  
じえんたいの人は、かたぐるまとかもしてくれ  
たので、うれしかったです。

### 無事に生まれた弟

大槌小学校 5年生 小松 未来さん

津波がきた時、母のおなかの中には赤ちゃんが  
いました。城山に登るのは、とてもつらそうでした。  
その夜、山火事がせまってきた、金沢のいとこの家、  
さらにその四日後には、北上にひなんしました。  
仙台のおじさんから、ガスコンロやいろいろなもの  
が届きました。みんなの事を心配してくれました。  
僕もできるお手伝いをしました。  
六月一日、無事に元気な弟が生まれました。  
みんなの助けのおかげだと思います。

### ウメさん、いとうありがとう

赤浜小学校 4年生 上野 竜太さん

ぼくは、津波があった日に黒沢ウメさんの家に  
泊ってもらいました。夜、お腹がへった時でも、お  
かしを二、三個くれました。  
次の日、ウメさんの家にお母さんが来ました。  
弟と一緒にお母さんといこの家に行きました。  
そこで一週間以上、お世話になりました。  
もし、ウメさんやいこの家がなかったら、山で  
過ごすことになったと思います。ウメさんといこ  
に感謝しています。

### いづみさん大好き！

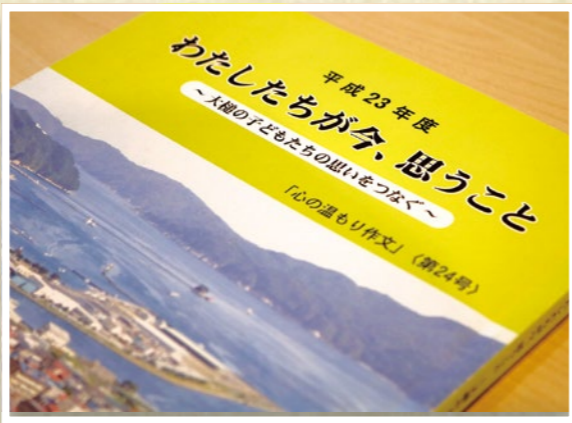
安渡小学校 1年生 小國 ルナさん

わたしは、いま中村のかせつにすんでいます。  
学校まであるのがたいへんです。でも、うれしい  
ことがありました。毎日、スクールガードのいづ  
みさんがいっしょにあるいてくれました。あるき  
ながらいっばいおはなしました。学校のはなし  
をきいてくれてうれしかったです。いま、いづみさ  
んはちがうしごとをしているけど、みちであうと  
ピツとなります。とてもうれいです。いづみさん  
いままでありがとうございました。

## あの日、あの時の 小中高生から

「わたしたちが今、思うこと～大槌の子どもたちの思いをつ  
なぐ～」と題し、2012(平成24)年に大槌町教育委員会  
から発刊された第24号「心のぬくもり作文」。3・11を経験  
した大槌町の小学生から高校生までが「何を思い、どう生き  
たか」を200字でつづった文集の特集号である。その中か  
ら、震災を通して生まれた「感謝」の気持ちを豊かに表現し  
ている作文を抜粋して紹介する。

※原文のまま。学校・学年の表記は当時のもの



### がんばろう

大槌北小学校 3年生 兼澤 大志さん

しんさいの後、ぼくは、吉里吉里小学校の体  
育館で勉強ができるようになったのでとてもうれ  
しかったです。いろいろなところからランドセルや  
文ぼう具セットなどのしえんをもらいました。  
いちばんうれしかったのは新びんのランドセルを  
もらったことです。このランドセルは、とても使い  
ごちがよくて、ぼくたちのことを思ってくれてい  
る人たちのやさしさがつたわってきます。いつも  
せ中から「がんばれ」とはげまされている様です。

### ありがとう、二人組のお兄さん

大槌小学校 4年生 佐々木 陽音さん

三月十一日におきた東日本大震災の時、ぼく  
は、海の近くで働いているお母さんが心配で、恋  
しかったです。ひなん所でお母さんを思い、五千  
つづ、一万つづのなみだを流し泣きました。  
その日の夜、お母さんと同じ会社で働いているお  
兄さんが友達と来てくれました。そして「お母さ  
んは、大じょうぶだよ。」と言ってくれました。その  
時、ぼくはありがとうつづやきました。ぼくは今  
も思っています。「あの時、来てくれてありがとう。」

### 黒い鉛玉

吉里吉里中学校 3年生 平野 節子さん

頭の中が真っ白だった。感情が抜けて、生きて  
いるのか分からない状態がずっと続いた。  
雪が降っていたあの日、帰宅途中の私に声を  
かけた人がいた。服を見ると大阪水道局の文字。  
「鉛ちゃんあげる。頑張ろな。」と言って四つ鉛玉  
をくれた。  
すごく甘い鉛玉だった。かけてくれた言葉が「が  
んばれ。」じゃなく、「がんばろう。」だった。人を  
思いやることの大切さを知り、前に進む力をくれ  
た。ありがとう。私、前より強く優しくなれたと  
思う。

### 東日本大震災を経て…

大槌高校 3年生 三浦 綾華さん

五ヶ月間の避難所生活の中で私が、友達や知  
り合いを亡くしたショックで一人て居た時、大槌  
町民の方に、「私はあなたの事は知らないけど、  
生きてて良かった。ありがとう。」と言われました。  
短いやりとりでしたが、とても温かく感じました。  
そして十月に開かれた祭。開催することも厳  
しいと思っていました。とても嬉しかったです。  
また、大槌祭を見た時、この祭を残す為にも頑  
張らなきゃと思いました。

ボランティアのみなさん！  
～ありがとう～ 小籠 じゅん

多くの皆様の  
温かいご支援で  
元気を取り戻しました。  
ありがとうございます！  
61才 大塚 あや

いっぱい震災で  
支援をしてください。今の自分はいません。  
震災でいっぱい支援してくれてありがとう。  
支援してくれておかげで今の自分があります。  
大塚町 13才 穂羽

感謝  
大塚  
岡野 治

皆、ありがとう。  
大塚でかんはるそ  
6才  
小園 大塚 祐希

自衛隊の方々へ  
震災の時に避難所に  
来てくださり、物資などを  
届けてくださりありが  
とうございました。そのお  
かげで、今はとても元気に  
過ごしています。本当に  
ありがとうございます。  
小籠 16歳 ひかり

大塚のみんなへ

このイベントには町外から集まる方々も多い。  
遠くから足を運んでくれた皆さんから、大塚町へ思いを。

共に復興  
感謝です  
AKIRA

大塚  
がんばれ!!  
みなさんありがとう!  
奇珠 44才  
宮古 67 高岩

大塚のありがとう  
イベント楽しい♪  
ありがとう!!  
穂市 44才  
秋原 雅博 男

大塚の皆様へ  
「ありがとう」を通じて、沢山の友達外  
びました!! 本当に感謝します!!  
ありがとうございます!!  
石川 33才 智

ありがとう  
来年もニハ!!  
北上市 お唱子 様

みんなから  
ありがとう

2018年8月5日、大塚町で行われた「第7回おおつちありが  
とうロックフェスティバル」。そこに集まった大塚町の皆さんに、  
支援して下さった方々への感謝の言葉を文字にしてみました。

ありがとう  
いっぱい  
ありがとう  
リリママ

ボランティアで  
来てくれた方々へ

震災当時おんさんが  
来ていっしょに掃除してく  
たおかげですごく助かりました。  
ありがとうございます!!  
今、おんが元気でやります!!  
よかったらまた大塚に来て下さい!  
花輪田 17才 KAHO

震災の時、支援して  
くださりありがとうございます  
います。みなさんのおかげ  
でいまでも安全に暮らすこと  
ができています。  
本当にありがとうございます。  
安渡 12才 ゆきま

支援してくださったみなさんへ  
震災当時はお世話になりました。  
みなさんの支援本当にありがとう  
ございました。そのおかげで今は  
安心して生活することができています。  
藤村 栄乃

自衛隊の皆様へ  
大塚でこのお祭り支援を  
してくれて本当にありがとう。  
暑い中作業していただき  
物資を届けていただき、本当に  
ありがとうございます。  
おかげで、お祭りも  
開催できました。  
おかげで、お祭りも  
開催できました。  
おかげで、お祭りも  
開催できました。

ありがとう  
1960.  
カミ

## ボランティア受け入れ、みんなが仲間

ファミリーショップやはた 八幡 幸子さん

あの時、たくさんボランティアの方が、大槌町を応援しようとかんばってくださいました。しかし、その方たちの宿泊場所がなく、自家用車で眠っている人も多かったのです。そのため、自分がやっている商店兼自宅とは別の建物を改修し、ボランティアの無料宿泊施設として開放しました。震災から2カ月半後のことでした。

全国から多くのボランティアを受け入れていくうちに、いろんな人の輪ができてきました。大槌を訪れ、支援してくださいった皆さんに本当に感謝しています。私たちは皆さんからももらった思いをつないで、生きていくことが大切だと思います。

この震災によって、日本列島がぐっと短くなった感じがします。全国のネットワークが生まれ、みんなが仲間のように思えるんです。ボランティアでこを訪れた人から電話がかかってくることもあるし、いきなり訪ねてくることもあります。あの時助けてくれた皆さんと再会するたび、つながりの大切さを感じます。



## 感謝の言葉

### この町に、希望の光が降り注ぎますように

金澤神楽 太田 未彩希さん

神楽一家のもとに生まれ、幼少期から祖父に習い始めました。しかし、震災前は後継者不足のため、金澤神楽は存続の危機でした。津波で実家が被災し、道具の一部も流されました。そんな中、がれきの中から太鼓だけが見つかったのです。自分にできることは、「神楽を舞うこと」なのだ、強く感じました。

当時、大槌町を支えてくれた自衛隊の撤退が決まり、お別れ会が開かれました。そこで、感謝の気持ちを込めて神楽を披露しました。思いを持って舞うことで、支援してくれた方の心に届いたらうれしいです。現在は、地区外からも会員を受け入れ、子どもから大人まで年代問わず、神楽の舞の指導に励んでいます。大槌まつりには、関東方面から毎年駆け付けてくれる方々もいます。

200年前から受け継がれてきた尊い伝統を次の世代へつなぐ。それこそが自分の使命だとさえ感じます。鎮魂の祈りとともに、人々の心に、生まれ育ったこの町に、希望の光が降り注ぎますようにと、願いを込めて。



## 「大槌の漁業」を思う気持ちに、心から感謝したい

新おおつち漁業協同組合 代表理事組合長 平野 榮紀さん

震災で壊滅的な被害を受けましたが、多くの方々のご支援をいただき、「新おおつち漁協」としてがんばることができています。心から感謝しています。

震災後すぐに、被害状況を知って駆け付けてくださった団体からは、フォークリフト、トラック、製氷機などの資機材と、生産活動に必要な仮設の作業場・番屋、殺菌装置などをご支援いただき、水揚げ作業ができる環境をいち早く整えることができました。

一方、震災後、横浜市瀬谷区の方々、熱い思いを持って支援を募っていただいたおかげで、定置船「瀬谷丸」を完成することができました。また、別の団体からは、漁協の主要な事業に対し、定置漁網、アルミ合金製定置漁船などに支援をいただき、町の水産業復旧の基盤整備が大きく前進いたしました。

多くの方々、海の町、大槌を「支援したい」という思いを持って行動してくださったことに「ありがとう」を伝えたいです。ご恩を忘れず、大槌の漁業を盛り上げてまいります。



## 今、伝えたい

### 大槌町の復興は、応援職員の皆様のおかげ

大槌町総務課職員情報班 班長 濱 英輔さん

大槌町の復興がここまで進んだのは、全国からお越しいただいた応援職員の皆様のおかげだと思っています。本当に感謝の思いをこめてつぶやいています。

当時、応急対応で地元職員が疲弊している時、業務にご協力いただいたことはもちろん、精神的なサポートも頂きました。全国から来てくれた応援職員の方々が、慣れない環境にもかかわらず、私たち地元職員に対して安心して仕事ができるようにご尽力いただいたことは、忘れません。

ある時、応援職員の方から「私たちは、大槌の応援のために来ているのだから、もっと仕事を振っていいよ」と言われました。そのおかげで、遠慮せずに業務を分担することができました。

職員の新人研修の場で、私が必ず新人職員に語り掛ける言葉があります。「今も全国から多くの応援職員が来ている。これまでの皆さん一人一人の思いや熱意を感じて、成長してほしい」。全国で災害が起こったら、今度は私たちが応援職員となって駆け付け、恩返しをしたいと思っています。



# 言葉以上の恩返しを

アスリートモデル 東 あずささん

あの日、高校1年生という繊細な年頃だった私が感じた恐怖や目に焼き付いた光景は、今でも鮮明に思い出されます。日本が大変な状況に置かれている中、「見ず知らずの人だけれど、何か少しでも力になりたい」と思って行動した方がたくさんいたことは忘れません。

東日本大震災の後も全国的に豪雨被害や震災などの自然災害があり

ましたが、私はすぐに何かをする事ができず、誰かのために行動することの難しさを学びました。仕事でもボランティアでも、遠くから来て支援してくださる方がいたという事実は大変ありがたいことであると同時に、そんな美德を備えた日本人の力を誇りに思います。

現在は東京でアスリートモデルとして活動しているのですが、幼少期の

私は田舎育ちの普通の女の子でした。夏は友人と海へ泳ぎに行っていましたし、体を動かすことが大好きでした。ひよつりひよつたん島（蓬萊島）が見える青い海の風景と共に暮らして成長してきた日々は、私の中で大切な思い出です。大槌にも伝えたい感謝の気持ちは山ほどあります。

支援してくださった方にも大槌町にも、「ありがとう」という言葉はまだ言えないような気もしています。その言葉で感謝の気持ちを収めたくないからです。ボランティアや自衛隊の皆さん、復興のために尽力した大槌

の皆さんの活動を見て、子どもだった私は「これが大人になるといふことなのかな」と感じたことを覚えています。

その皆さんのバトンを受け取るのは私たちだから、「次は私たちががんばらないといけない」とやる気ももらいました。少しずつもお仕事を頂けることが増えてきたので、アスリートモデルとして、そして「三陸♡おおつちPR大使」として多くの人に喜んでもらえるように活動していきたい。その活動を、いつか「ありがとう」の言葉以上の恩返しにできるようながんばりたいと思います。

1994(平成6)年、大槌町赤浜生まれ。長年柔道で鍛えてきた体を生かし、17歳でモデル活動を始めた。現在は、ブラジリアン柔術のアスリートモデルとして活躍中。2018(同30)年に、大槌町の魅力や良さを全国に発信する「三陸♡おおつちPR大使」に任命された。

2019年3月に開業した三陸鉄道リアス線大槌駅で